

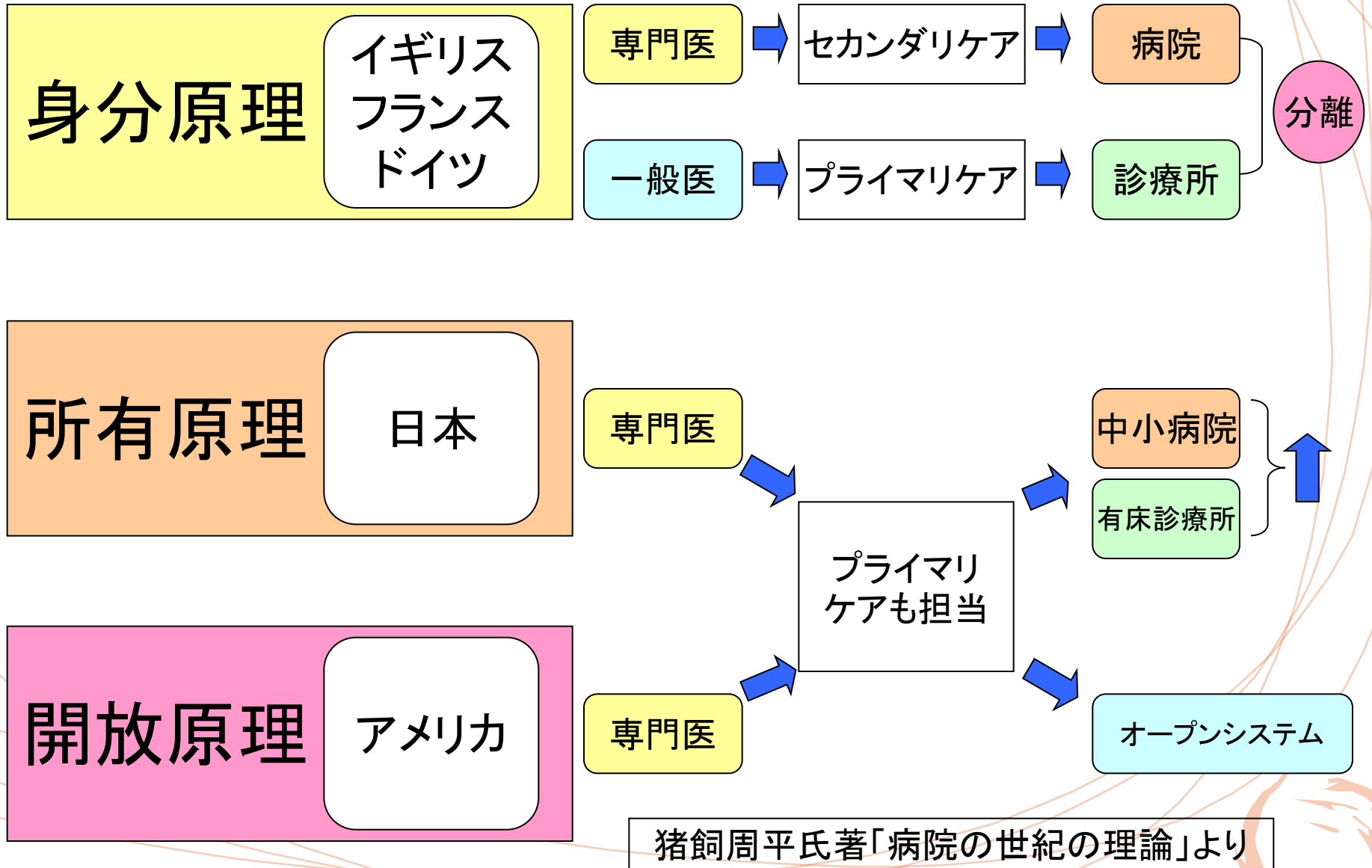
第8回 在宅医療推進会議

日本医師会の在宅医療への取り組みについて

日本医師会常任理事 鈴木 邦彦

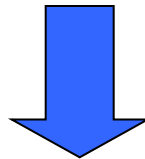
平成26年3月20日(木)

3原理分類に基づく先進各国の医療システムの分類



日本型医療システムの特徴

- ①民間中心の医療提供体制
- ②専門医がプライマリケアを担当



- ①中小病院
有床診療所 } が多い
- ②診療所の質が高く充実している

かかりつけ医機能の推進

超高齢社会では、認知症などの疾病に加え、高齢者の日常生活の不具合も含めた早期発見、早期治療(対応)の必要性が高まり、かかりつけ医の役割はますます重要になる。外来医療、在宅医療に適切な資源を投入し、「かかりつけ医」を中心として、患者・国民の健康に幅広く対応していく。

かかりつけ医とは

なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師



今後わが国に必要な医療

高度急性期医療

高齢化・人口減でニーズ ↓

地域に密着した医療

超高齢社会でニーズ ↑

北欧・イギリスモデル

総合医（G P）による在宅中心

高齡化中程度まで対応可能
高負担
（イギリスは中負担だが抑制強く介護は不十分）

日本モデル

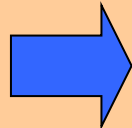
新日本型かかりつけ医により
施設も在宅も活用

超高齢社会に対応
中小病院
有床診療所
日本型診療所
中負担

既存資源の活用

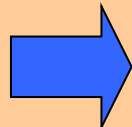
超高齢社会に適した日本型医療システム

① 中小病院
有床診療所 } が多い



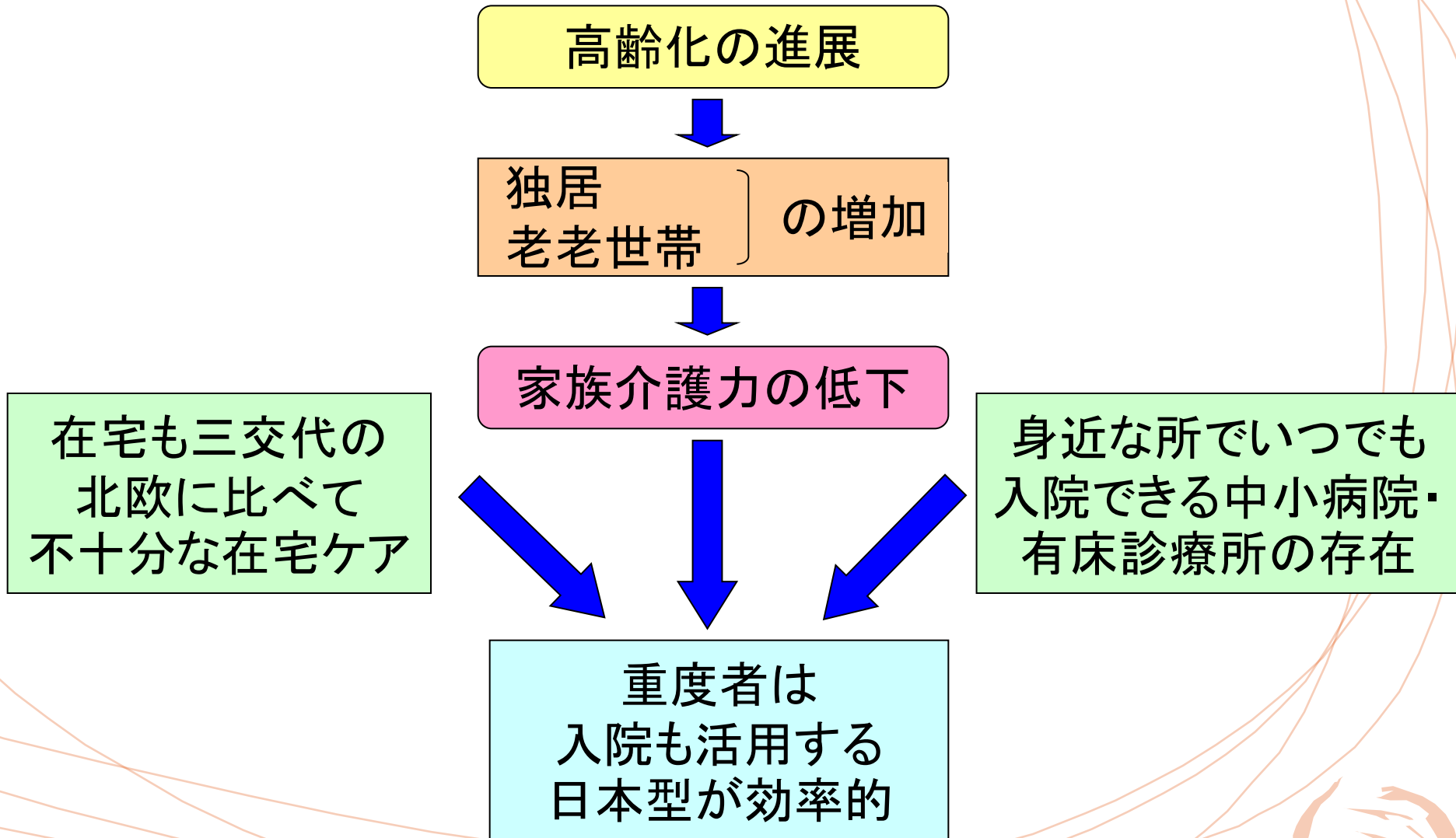
身近な所でいつでも入院もできる
高齢者の在宅支援システムの構築
が可能

② 診療所の質が高く
充実している

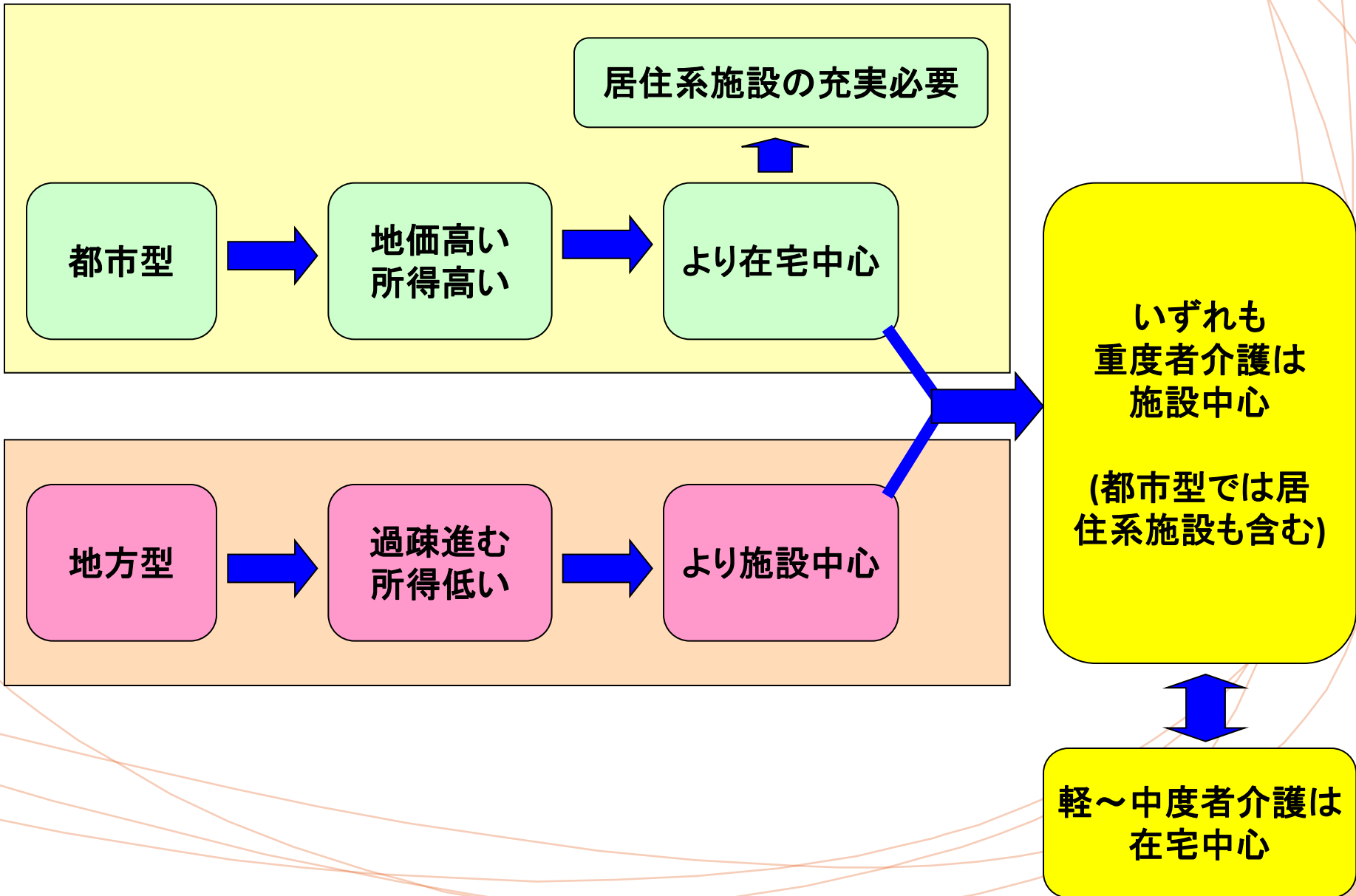


高齢者に便利なワンストップサービス
が可能
【検査・診断・治療・(投薬)・健診】

世界一の超高齢社会となったわが国における在宅の在り方



日本型の高齢者介護の確立



在宅医療に関する研修会等 これまでの経緯について

- 平成18年度～19年度 「在宅医研修会」の開催
- 平成20年度～21年度 「在宅医療支援のための医師研修会」の開催
- 平成22年度 社会保険指導者講習会「在宅医療 一午後から地域へー」の開催
- 平成23年度 日医内に「在宅医療連絡協議会」の設置
- 平成24年度 「第1回 日本医師会 在宅医療支援フォーラム」の開催
- 平成25年度 「日本医師会 在宅医リーダー研修会」の開催

平成18年度～19年度

在宅医研修会

【概要】

国による療養病床再編施策により、施設から在宅(地域)への流れが加速する中、在宅療養を支える体制づくりが大変重要となっていることを受け、在宅療養に携わる医師の知識・技術向上と研鑽に資するための研修会として開催。

また、TV会議システムを利用し、各都道府県医師会における同時受講も可能とし、初回の講演記録集については後日全会員に配付した。

- ◇平成18年度 在宅医研修会
～在宅での看取り(がん以外の認知症、脳卒中等による死)～
日時:平成19年2月4日(日) 参加者数:583名
- ◇平成19年度 第1回 在宅医研修会
～在宅医療を推進する諸形態～
日時:平成19年8月26日(日) 参加者数:384名
- ◇平成19年度 第2回 在宅医研修会
～在宅ケアにおける専門性の確立と相互の補完～
日時:平成19年11月11日(日) 参加者数:229名

平成18年度 在宅医研修会	
「在宅での看取り(がん以外の認知症、脳卒中等による死)」	
プログラム	
期日:平成19年2月4日(日)	
会場:日本医師会館 大講堂(1階)	
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16	
電話:03-3946-2121(代表)	
9:30 開始 (午前の部)	
9:30 ~ 9:35	開会・挨拶(日本医師会)
9:35 ~ 10:35	・これからのがん以外の在宅での看取り 池上 直己(慶応義塾大学医学部 医療政策・管理学教室教授) (60分)
10:35 ~ 11:35	・一般の診療所が実施可能な在宅医療について 黒岩 卓夫(医療法人社団晴気会 晴気園浦佐診療所所長) (60分)
11:35~12:35 休憩(昼食) 60分	
12:35 再開 (午後の部)	
12:35 ~ 13:35	・在宅医療を推進するための地区医師会の役割について 野中 博(医療法人社団博腎会 野中病院院長) (60分)
13:35 ~ 14:35	・在宅療養者が安心できる在宅ケア支援システムについて 山崎 章郎(ケアタウン小平クリニック院長) (60分)
14:35 ~ 15:35	・在宅医療の推進 -地域リハビリテーションの観点から- 米満 弘之(医療法人社団寿量会 熊本機能病院理事長) (60分)
15:35~15:45 休憩 10分	
15:45 ~ 16:45	全体ディスカッション (60分)
16:45 終了	

平成20年度～21年度

在宅医療支援のための医師研修会

【概要】

平成18年度より開催してきた「在宅医研修会」であったが、今後は在宅療養に携わる医師の研修システムを普遍化することを本会の責務と考え、日本老年医学会、並びに在宅医療推進会議の協力のもと、平成20年度研修会に使用するカリキュラムの作成を目的に検討会を行い、完成したカリキュラムを用いた研修会を開催。

在宅医療をサポートする医師の研修カリキュラム作成検討会

氏名（敬称略）	所属等
太田 秀樹	医療法人アスムス理事長
黒岩 卓夫	医療法人社団萌気会理事長
◎ 高木 安雄	慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科教授
鳥羽 研二	杏林大学医学部 高齢医学教室教授
野中 博	前社会保障審議会後期高齢者医療の在り方に関する特別部会委員
細井 孝之	国立長寿医療センター先端医療部長
和田 忠志	医療法人財団千葉健愛会理事長

◇平成20年度 在宅医療支援のための医師研修会
日時：平成21年3月20日（金、祝） 参加者数：301名

◇平成21年度 在宅医療支援のための医師研修会
日時：平成22年3月28日（日） 参加者数：239名

◇担当常任理事： 三上 裕司（平成20年4月1日より担当）
◇前担当常任理事： 天本 宏（平成20年2月13日から平成20年3月31日 担当）
◎は座長

在宅医療 一午後から地域へ

【概要】

国民の誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし、充実した最期を迎えられる社会の実現に向け、一人ひとりの生活や多様な価値観、そして地域の特性に合わせた医療・介護サービスの提供が望まれ、在宅での医療のニーズが高まるなか、都道府県医師会・地区医師会には多職種の連携と地域の基盤整備において中心的な役割を果たすことが期待されていたことから、在宅医療をテーマとした社会保険指導者講習会を開催。

日医生涯教育シリーズの1冊として「在宅医療 一午後から地域へ」を刊行。

また生涯教育関係では、日医雑誌(平成25年10月号)の特集として、座談会「かかりつけ医機能と在宅医療」を行い、別冊にて発行している。



在宅医療連絡協議会の立ち上げ

【概要】

地域包括ケアにおける病院・診療所等を含めた医療提供の在り方等の検討を行うことを目的として、在宅医療連絡協議会を立ち上げた。

現在も定期的を開催しており、これまでに平成24年度実施の「第1回 日本医師会在宅医療支援フォーラム」、平成25年度実施の「第1回 日本医師会在宅医リーダー研修会」の企画、資料作成、DVD作成等を行っている。

在宅医療連絡協議会	
氏名（敬称略）	所属等
池端 幸彦	医療法人池慶会 池端病院 理事長／院長
太田 秀樹	医療法人アスムス 理事長
梶原 優	医療法人弘仁会 板倉病院 理事長
篠原 彰	篠原医院 院長
白髭 豊	医療法人白髭内科医院 院長
土橋 正彦	土橋医院 院長
新田 國夫	医療法人社団つくし会 新田クリニック理事長／院長

◇担当常任理事： 鈴木 邦彦、高杉 敬久
◇担当副会長： 中川 俊男

（平成26年1月15日現在）

平成24年度

第1回 日本医師会 在宅医療支援フォーラム

【概要】

都道府県医師会や郡市区医師会で在宅医療・介護等に関する地域での連携の核となるリーダー育成の観点から開催。

今後とも引き続き開催していく予定である。



◇第1回 日本医師会 在宅医療支援フォーラム
日時:平成25年3月17日(日) 参加者数:303名

日本医師会 在宅医リーダー研修会

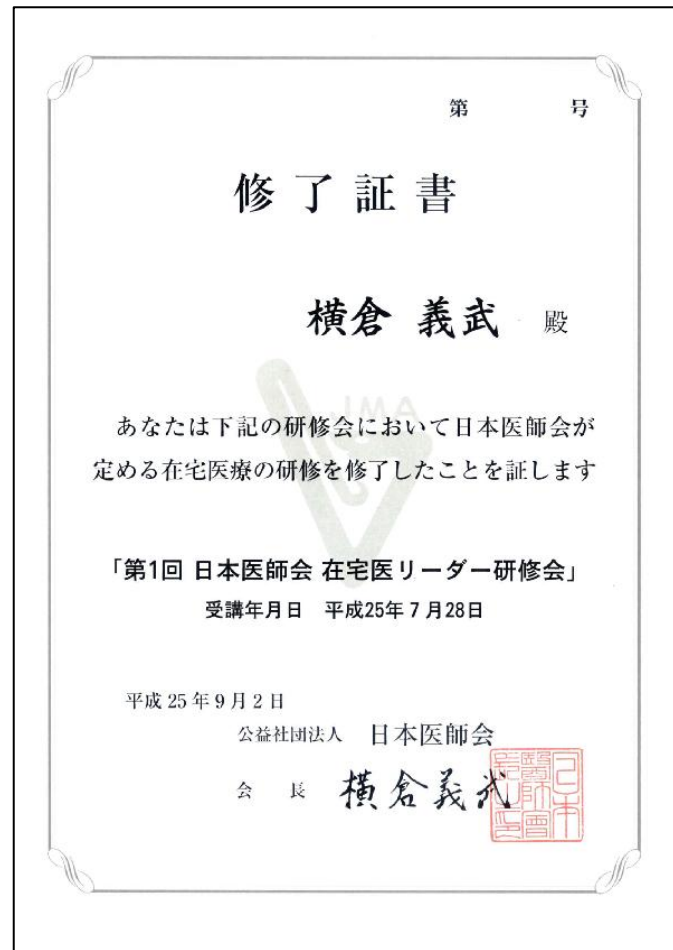
○平成25年7月28日(日)、都道府県医師会や地区医師会における在宅医療に関するリーダー育成、在宅医療の推進支援を目的に日医主催で標記研修会を開催。研修修了者に対しては修了証書を交付。

○以降、都道府県医師会が主催または郡市区医師会や行政、学会等と共催する研修で、要件を満たすものについては日医より修了証書を交付しているところ。

研修要件:日医作成テキスト「かかりつけ医の在宅医療 超高齢社会ー私たちのミッションー」の全項目を範囲とした3時間程度の講義、および同DVD上映。

開催支援金:平成25年度中に申請されたものに対して10万円の支給。(複数開催の場合も1回限り。)

【修了証書見本】



※平成26年1月8日現在 21都府県、24箇所で開催。修了者725名。
(日医での研修修了者を含めると1,162名)

「在宅医療」を、地域で活動している医師に、かかりつけ医の活動の柱の一つとして認識してもらおう。

○テキスト及びDVDを作成

「かかりつけ医の在宅医療 超高齢社会 —私たちのミッション」の制作
(平成25年7月)

【テキスト】



※ テキストおよびDVD映像は、日本医師会ホームページよりどなたでもご覧いただけます。

<http://www.med.or.jp/jma/nichii/zaitaku/001707.html>

【DVD】



DOCTOR-ASE

Japan
Medical
Association
日本医師会

医学生がこれからの医療を考えるための情報誌【ドクターゼ】

No. 07

Autumn 2013

●医師への新訪
曾田 学
●10年目のカルテ
呼吸器内科

特集

在宅医療

患者の「居場所」で行う医療



学生の中から、在宅医療に興味を持ってもらうことが重要



顔の痛みを軽減するための注射をする岡田先生（写真右）と、医学生の大島さん（写真左）。



〔上〕まずは外来を見学。診察の際は、患者さんのことだけでなく、その家族の様子などについても話を聞いているとのこと。

〔左〕注射や、皮膚にできたイボを取る手術なども岡田先生（写真右）に見学させてもらった。

特集
「在宅医療 患者の『居場所』で行う医療」より

「DOCTOR-ASE」（日本医師会が発行する医学生向け冊子）

今後の医療・介護の提供体制とまちづくり



【日本医師会保険医療部介護保険課作成】

小・中学校区レベル(※):

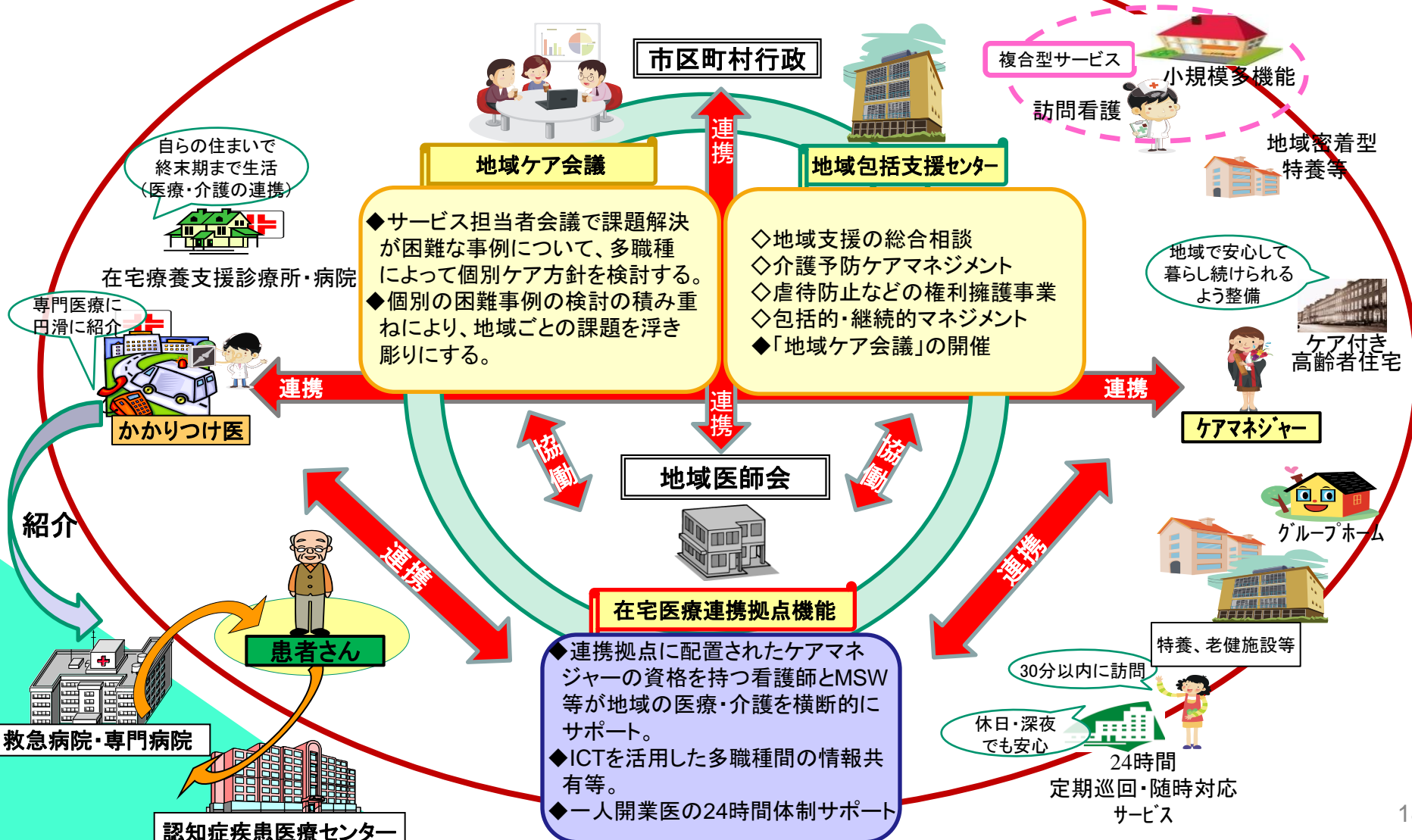
日常生活の継続支援に必要な医療・介護サービス提供体制

新しい公共(パートナーシップ) = 地域の支え合い

認知症サポーター

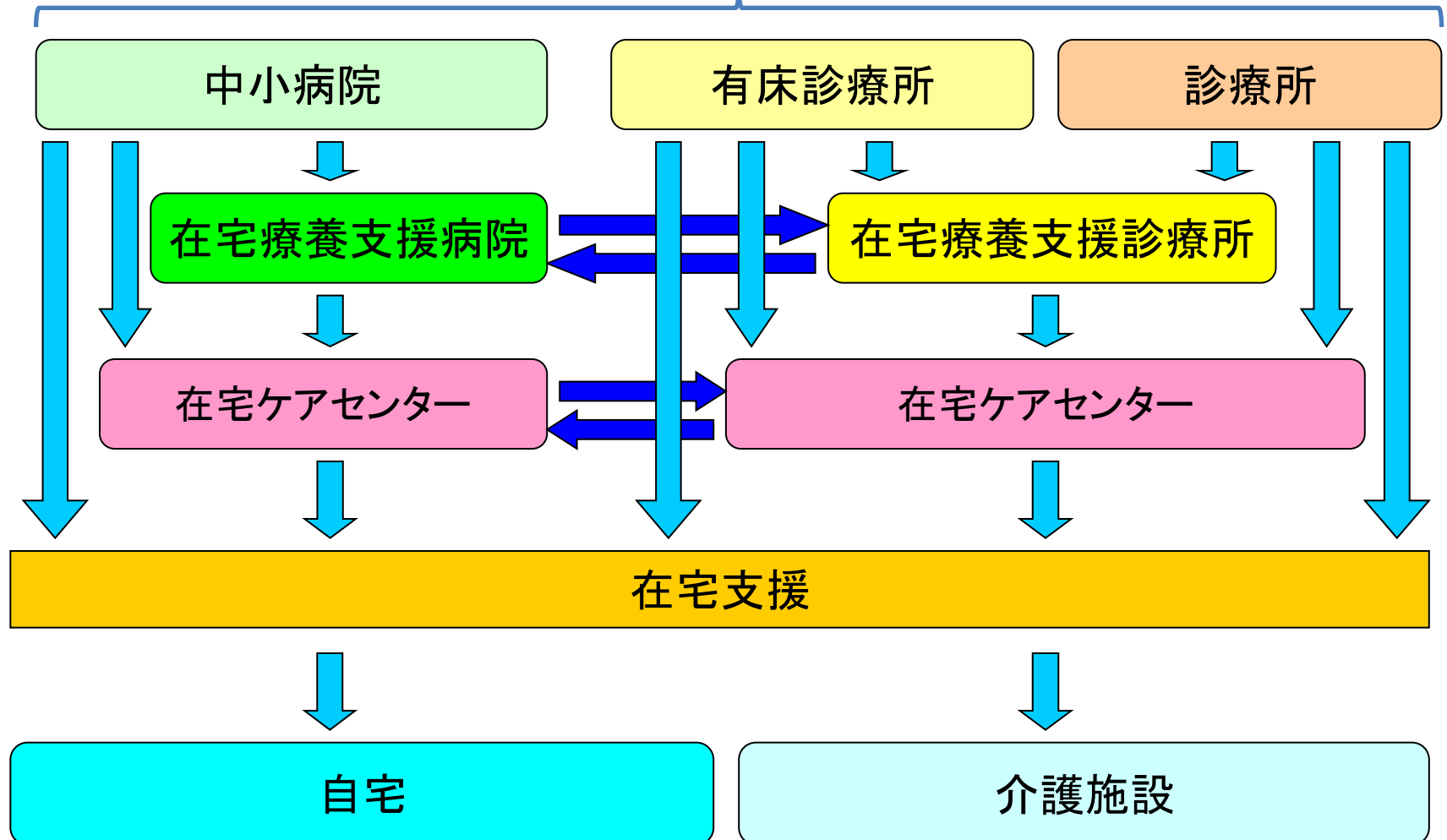
生活・介護支援サポーター

NPO、住民参加等



既存資源を活用した日本型在宅支援モデル

かかりつけ医機能



日本型在宅の主役は郡市区医師会



在宅医療だけでなく、医療と介護の連携や在宅における多職種協働のリーダーは医師が最適



医学部教育の見直しによる一般臨床能力の向上と日医生涯教育の充実による新日本型かかりつけ医
＝日本型総合医の育成が必要

超高齢社会の課題と対応

「がん・脳卒中・心臓病は克服しても」

生きがい・役割の喪失 → 就労・社会参加

まちづくり

廃用症候群・認知症の進行 → リハビリ・認知症ケア

栄養状態の低下 → 栄養管理（とくに在宅）

病気になり易く治りにくい → 入院・在宅医療

寝たきり状態 → 施設・在宅 → 緩和ケア

死亡 → “人生の最期にふさわしい看取りを”

ご静聴ありがとうございました。

